

# 第1回国土交通省成長戦略会議(H21.10.26開催) ～長谷川閑史委員提出資料(抜粋)～

参考資料5

## 成長戦略～停滞する経済から転換するために～

### 求められるのは、量的成長戦略と質的成長戦略のバランス

- 視点の転換(部分最適→全体最適、個人益・団体益・産業益・省益→国益)  
部分最適や細部の追求は得意だが、全体最適(グランドデザイン)が不得手な国民性が合成の誤謬を生んでいる  
(例:iPod、調和の取れた美しさと利便性に欠ける都市計画、個別テーマごとに行い暗礁に乗り上げる外交交渉)
- 「国際競争力確保」と「国民へのサービス提供」のバランスに基づいた「選択と集中」
- (前提) ●徹底した生産性・効率性の追求(企業のみならず、社会のあらゆるシステムへの適用)
- 情報の非対称性の解消(=情報開示の徹底)
- イノベーションの継続(猛追する中国・韓国等新興国企業の一步先、半歩先を行くイノベーションで優位性を維持、特に日本が得意とする製造業および環境対応技術の革新)

#### 量的成長戦略 (グローバル化への対応)

- 海外展開のための企業合併(M&A)の推進
- 成長市場におけるパイ獲得のための戦略転換、バランスの取れた製品開発の推進
- 優れた日本の技術・製品の官民一体となったプロモーション
- イノベーションを活かす国際統一規格設定
- グローバル化対応促進のための更なる市場開放

#### 質的成長戦略 (福祉の充実と地方の自立化・活性化等を通じた内需喚起)

- 少子・長寿化に伴う人口減少への対応
- セーフティネット(年金・医療・介護等)の充実により安心して挑戦できる社会づくり
- 成熟国家に見合った快適な暮らしを実現する都市政策・住宅整備
- 中小企業の競争力確保
- 官から民へのサービス業務の大幅移管
- イノベーション支援と人材育成への投資